

reltec

電子供給器 HD21 (エイチディー21)



電子供給器 HD11 (エイチディー11)



警告

- 次のような医用電気機器との併用は、影響を与える可能性がありますので、使用しないでください。
 - ペースメーカーや植込み型除細動器などの電磁障害の影響を受けやすい体内植込み型医用電気機器
 - 心電計などの装着形の医用電気機器
- 心臓病と診断され、日常の過激な運動を制限されている人は使用しないでください。

注意

- 次の人は、ご使用前に必ず医師に相談してください。
 1. 悪性腫瘍のある人
 2. 心臓疾患のある人(心臓に障害のある人)
 3. 妊娠している人 妊娠初期の不安定期又は出産直後の人
 4. 糖尿病などによる高度な末梢循環障害による知覚障害のある人
 5. 体温38℃以上(有熱期)の人
(急性炎症症状[倦怠感、悪寒、血圧変動など]の強い時期にある人、衰弱している人)
 6. 安静を必要とする人
 7. 脊椎の骨折、捻挫、肉離れなど急性(痛風性)疾患の人
- 子供に使用する場合は、必ず保護者の監督下で使用してください。
また、機器本体、導子極板および対極板の上で子供を遊ばせたり、上に乗ったりさせないでください。
- 機器の上に物を置かないでください。
 - 他の電気製品の近くに置かないでください。
 - 金属繊維などの導電性物質を含む布団とともに使用しないでください。
 - 導子極板および対極板プラグの本体差込口のソケットに金属棒などを挿入しないでください。
 - 導子極板および対極板のケーブル、電源コード、ACアダプターに無理な力が加わらないようにしてください。
極端に曲げたり、引っ張ったり、ねじったり、小さく束ねたり、重いものを乗せたりすると、寿命を縮め、火災、感電、事故などの原因となります。また、導子極板および対極板のプラグ部分に衝撃を与えると、プラグの破損の原因となりますのでご注意ください。
 - 弊社が提供する付属品(電源コード、ACアダプター、導子極板、対極板)以外は使用しないでください。
 - 本体および付属品を他の用途に使用しないでください。
 - 濡れた手で製品を扱わないでください。感電などのけがや故障のおそれがあります。

電子供給器HD21/HD11は健康関連機器であり、医療機器ではありません。
本機器の使用目的は、一般的な健康目的や健康的な生活を維持するためであり、医療目的(病気の発見、診断、監視、病状や病
気に関する治療等)のためではありません。
医学的なアドバイスが必要な場合は医師にご相談ください。
尚、日本国内仕様のため、安全上及び法律により、海外ではご使用できません。

製造元
reltec レルテック医療器株式会社

香川県坂出市川津町3795番地1
TEL (0877) 45-5333(代) FAX (0877) 45-1881
<http://www.reltec.co.jp>

お問い合わせは販売店へ

還元電子技術適用



電子供給器 HD21 YD仕様／BD仕様

希望小売価格

900,000円 (税込 990,000円)

YD仕様：導子極板AC 2本、対極板YD 2本
 BD仕様：導子極板AC 2本、対極板BD 2本
 導子極板 / 対極板ケーブルの長さ：2.5mまたは4m
 外形寸法：300(W)×110(H)×280(D)(mm)



電子供給器 HD11 YD仕様／BD仕様

希望小売価格

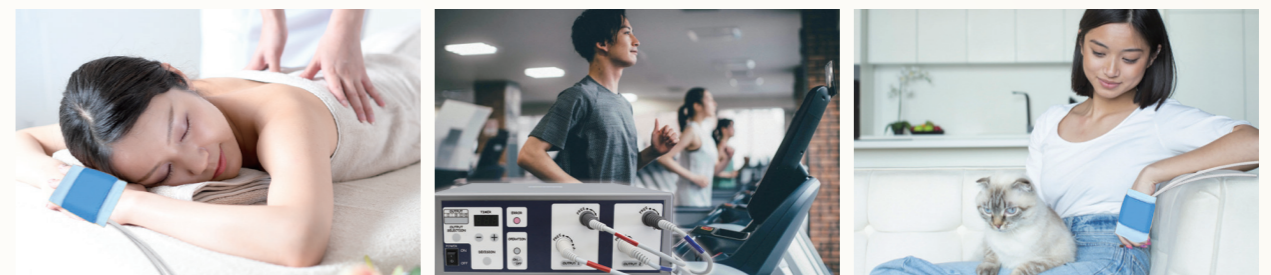
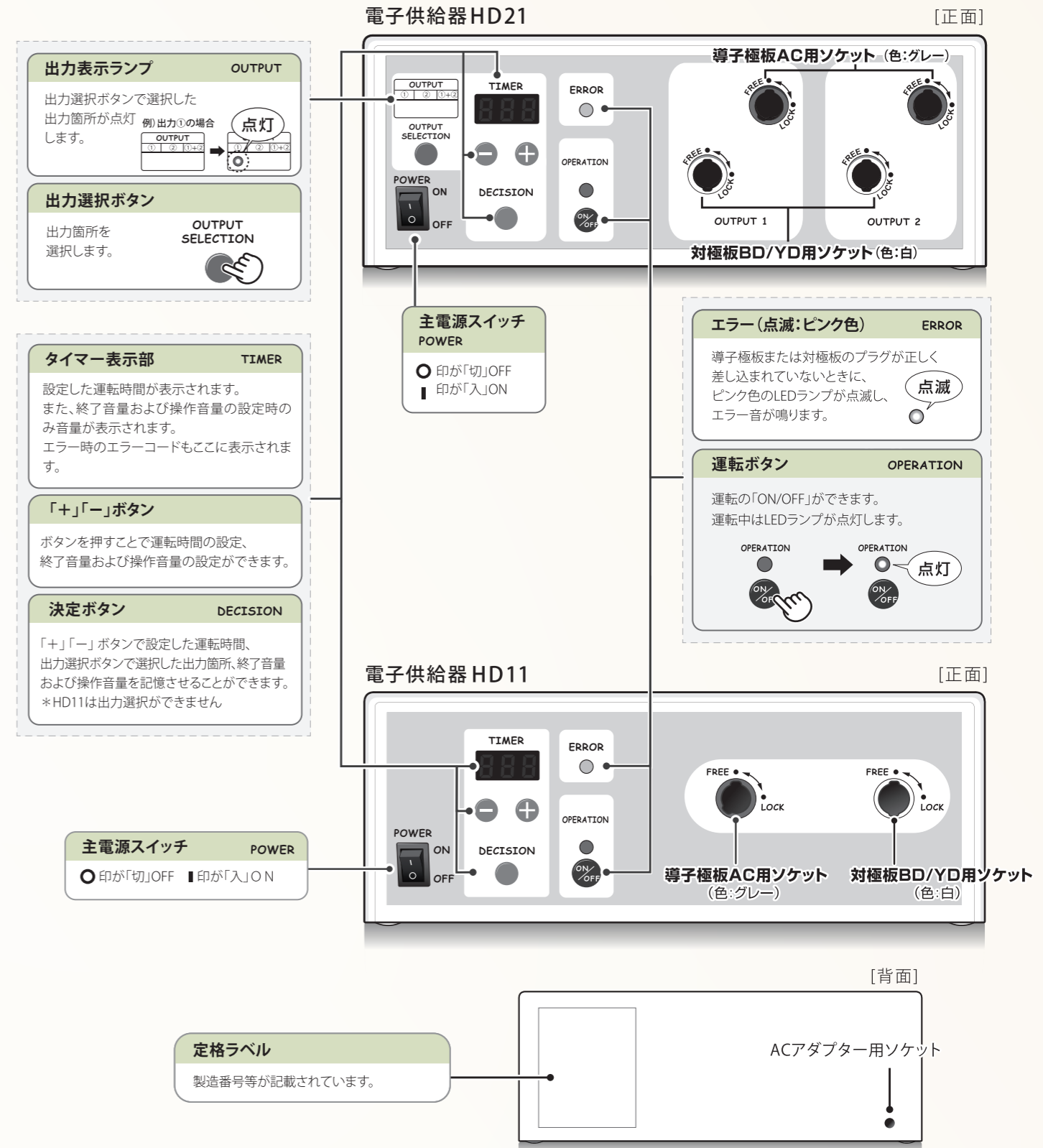
500,000円 (税込 550,000円)

YD仕様：導子極板AC 1本、対極板YD 1本
 BD仕様：導子極板AC 1本、対極板BD 1本
 導子極板 / 対極板ケーブルの長さ：2.5mまたは4m
 外形寸法：300(W)×110(H)×280(D)(mm)

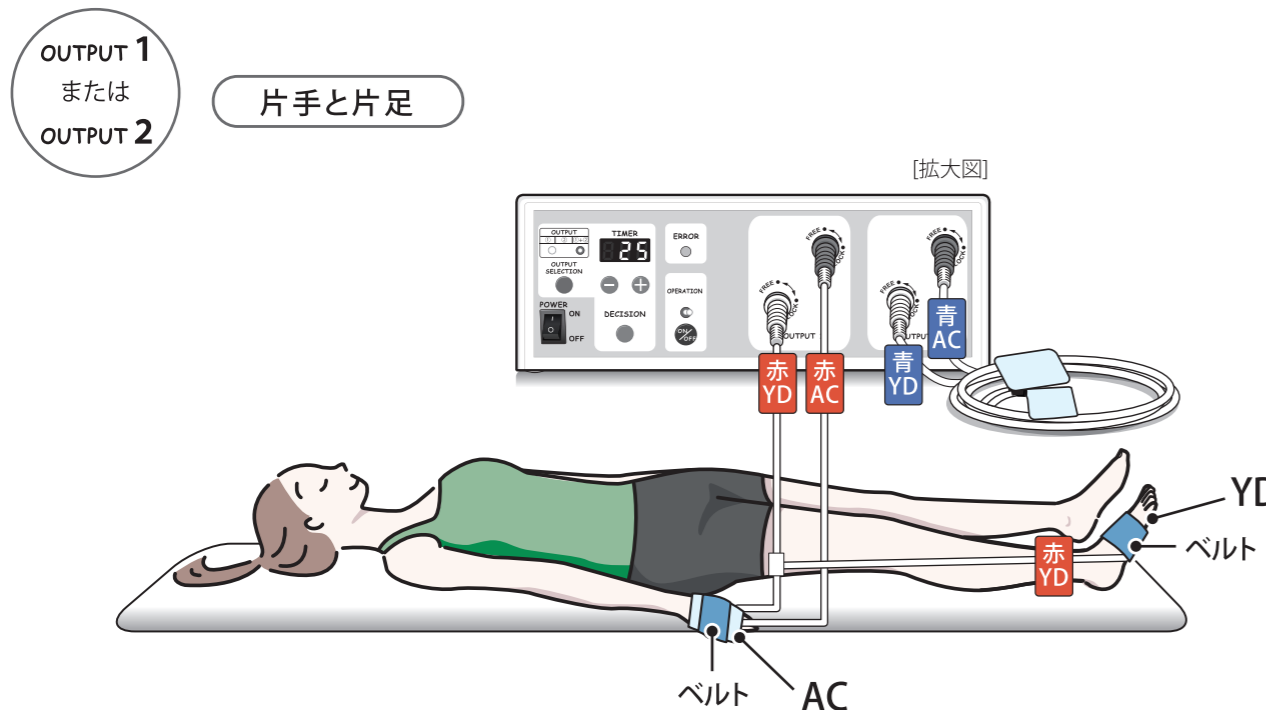
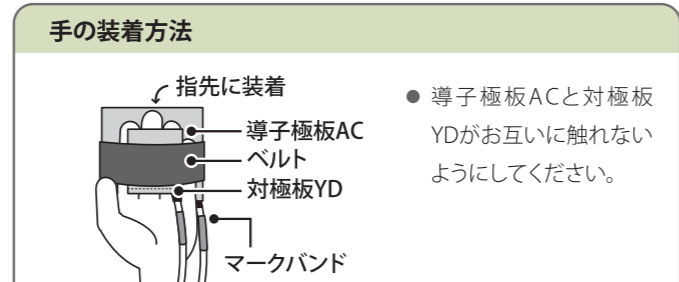
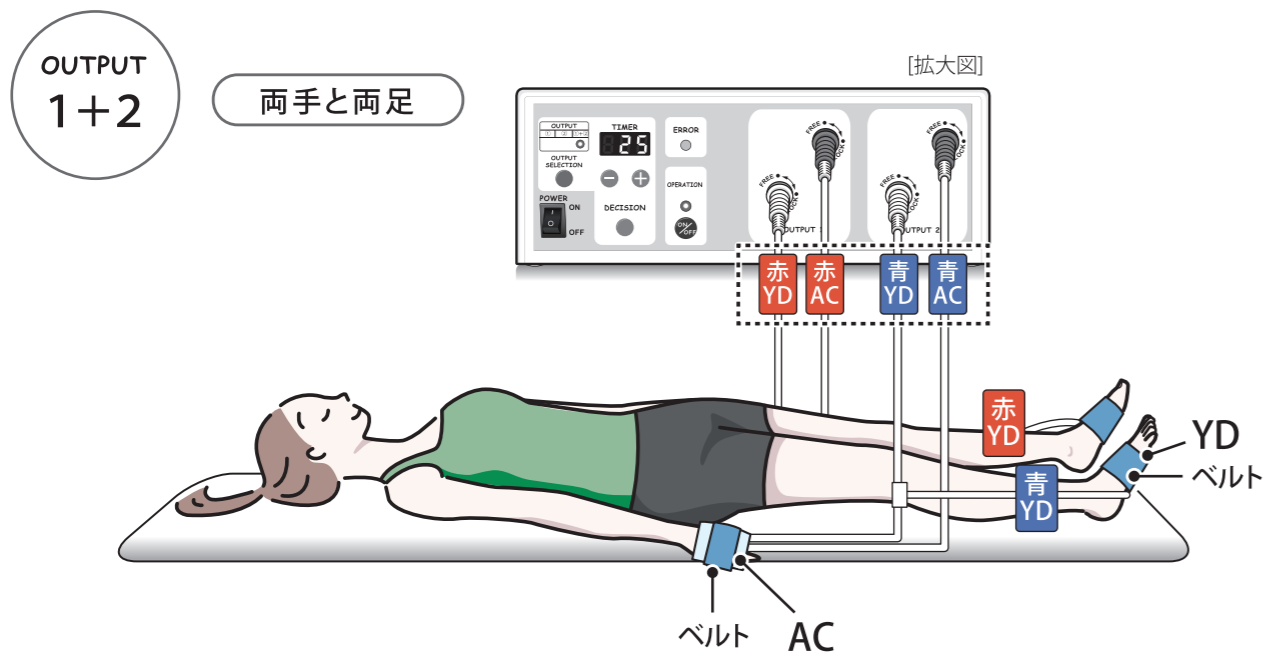
還元電子技術とは

電子供給器には「還元電子技術*」を適用しています。(*レルテック医療器(株)の社内呼称)
 「還元電子技術」とは、抗酸化を目的として、人体に対して皮膚を経由して(経皮的に)電子を効率的・効果的・安全に供給するための包括的技術です。

本体各部の名称と機能

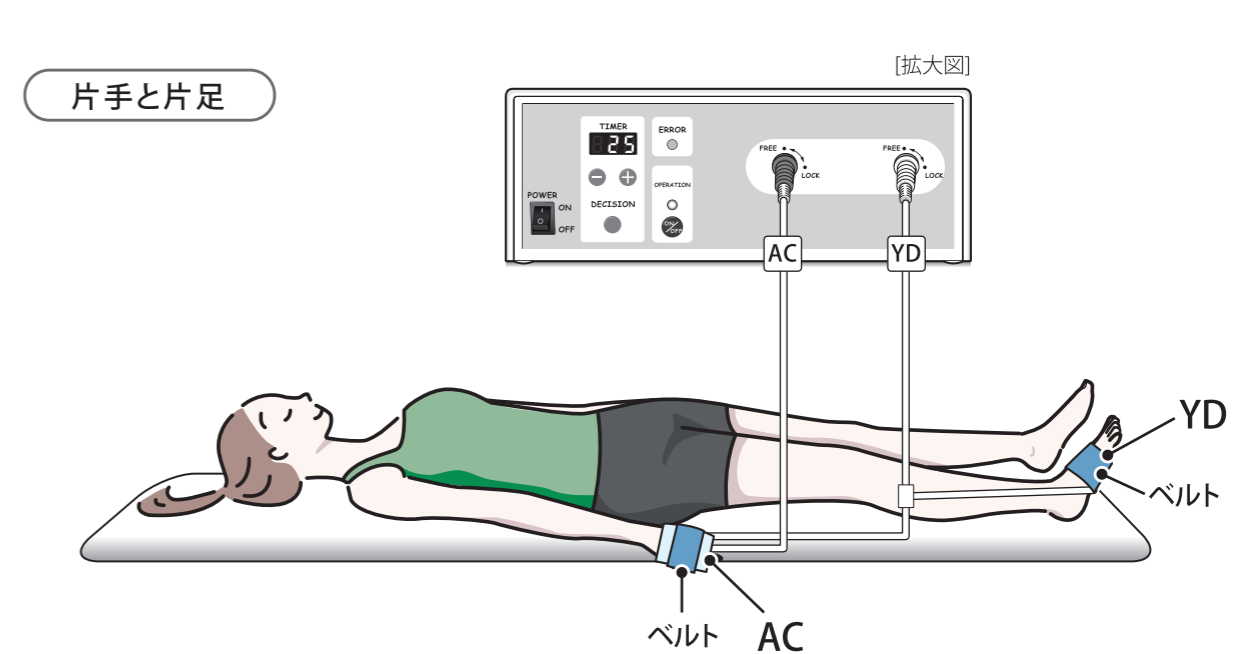


下の装着例から、足に取り付ける対極板を外すとHD21 BD仕様の装着例になります。



お願い ●仰向けになって使用してください。
●使用後は1時間以上あけてください。 絵はイメージ図のため色、形状等異なります。

下の装着例から、足に取り付ける対極板を外すとHD11 BD仕様の装着例になります。



使用方法

標準的な使用例

期間	1回の使用時間	一時的な身体のだるさを感じたときは、1回の使用時間を短くしてください。	1日の使用回数	1回の使用時間
初日～3日目	5～10分		1～5回 (目安)	5～60分 (目安)
4日目～7日目	10～15分			
8日目～	15～60分			

- ①上記の表は標準的な使用の一例です。体調に合わせて1回の使用時間、1日の使用回数を適宜、調整してください。
- ②使用後、次の使用までに1時間以上あけてください。
- ③初めて使用されるときは、短時間(5～10分)で使用し、回数を重ねながら少しずつ身体を慣らしてください。
- ④一時的な身体のだるさを感じたときは、1回の使用時間を短くしたり、1日の使用回数を減らしてしてください。
- ⑤お子様や身体の弱い方など、年齢、体力、体重により、1回の使用時間は20分以内にするなど適宜、調整してください。
- ⑥身体に異常を感じたときは、直ちに使用を中止してください。
- ⑦途中で別のの人に使用するときは、必ず、運転を停止してから行ってください。
- ⑧導子極板と対極板は、裏表を交互に使用することをお勧めします。
- ⑨1か月以上使用しなかったときは、短時間(5～10分)で使用し、回数を重ねながら少しずつ身体を慣らしてください。

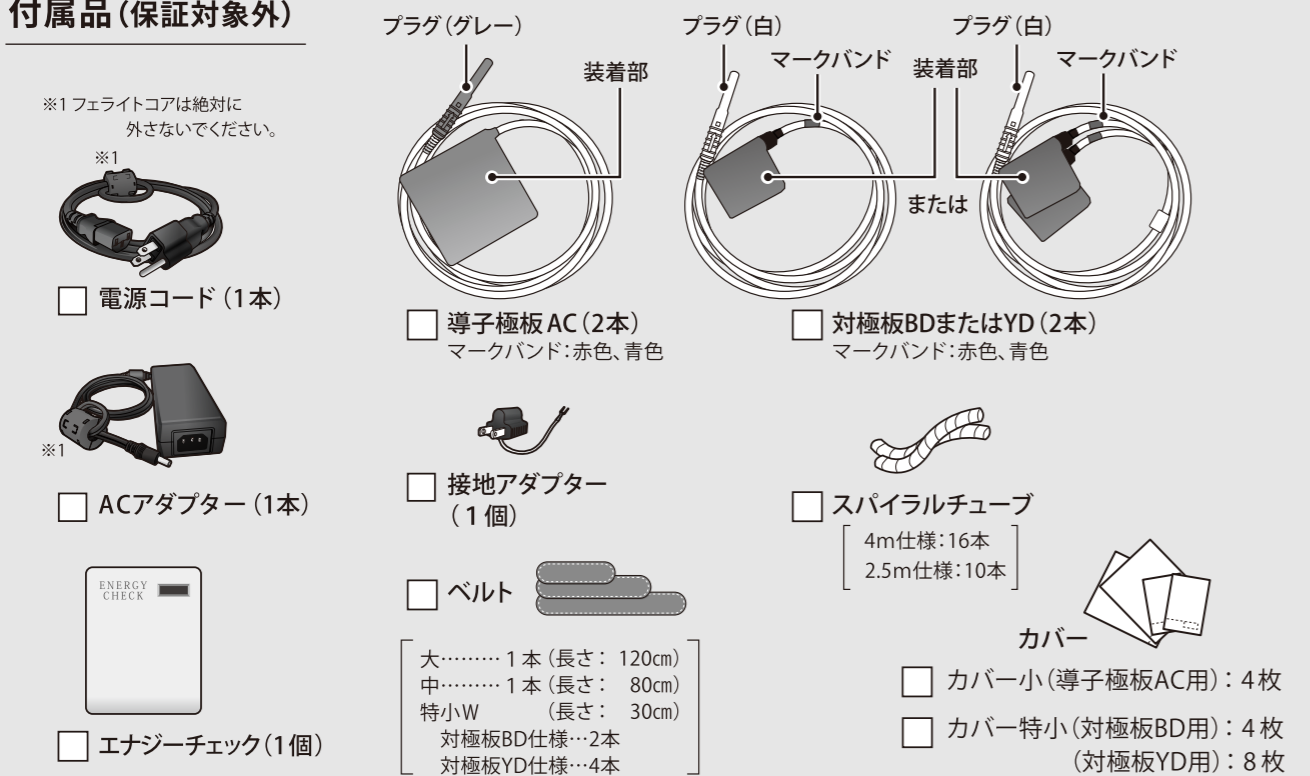
電子供給器 HD21 仕様

※掲載した製品の仕様や外観は改良等の理由により、予告なしに変更することがありますのでご了承ください。

販売名	HD21
型式	HD21
外形寸法	300(W)×110(H)×280(D)(mm)
定格電圧	100-240V～(日本国内での使用の場合、AC100Vに限定)
定格周波数	50-60Hz
定格消費電力	2W
重量	約2.2kg(本体)
運転時間	任意設定(1分～60分)
出力電圧	DC-5000V±1000V
出力数	3パターン(出力1、出力2、出力1+2)
安全装置	・プラグが抜けた時、運転の自動停止 ・プラグが正常に挿入されていない時、運転しない ・過電流保護 出力部に保護抵抗を直列接続して電流の流れを制限
作動モード	連続運転

付属品	YD仕様	BD仕様
導子極板AC(2.5m/4m)	2本	2本
対極板YD(2.5m/4m)	2本	—
対極板BD(2.5m/4m)	—	2本
カバー小	4枚	4枚
カバー特小	8枚	4枚
ベルト特小W(長さ30cm)	4本	2本
ベルト中(長さ80cm)	1本	1本
ベルト大(長さ120cm)	1本	1本
ACアダプター(1.25m)	1本	1本
電源コード(2m)	1本	1本
接地アダプター	1個	1個
取扱説明書	1部	1部
エネルギーチェック	1個	1個
スパイラルチューブ(2.5m/4m)	10本/16本	10本/16本

付属品(保証対象外)



導子極板/対極板

導子極板および対極板は消耗品です。性能を十分に維持するために、導子極板ACは1年毎の交換をおすすめします。また断線・破損した対極板YDまたはBDを使用すると、感電や電撃を受けるおそれがありますので、対極板YDまたはBDは1～2年毎の点検をおすすめします。



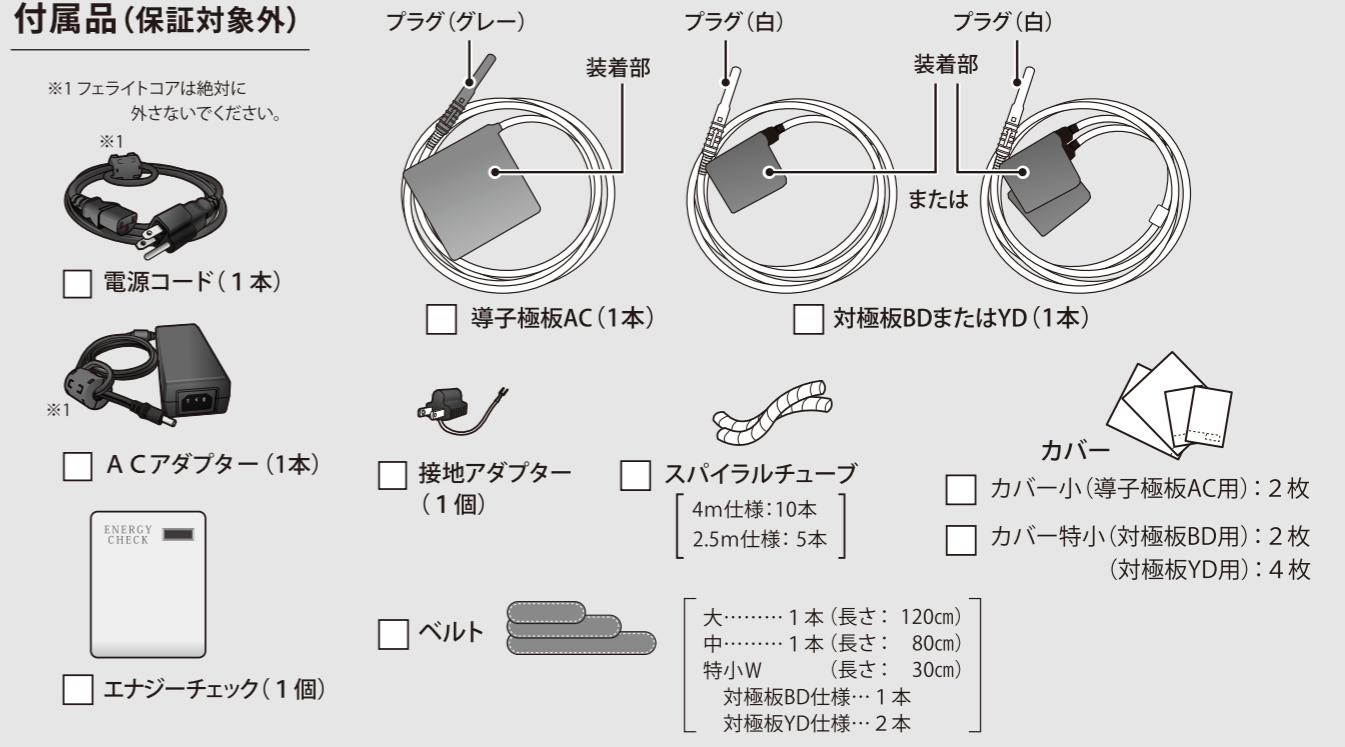
電子供給器 HD11 仕様

※掲載した製品の仕様や外観は改良等の理由により、予告なしに変更することがありますのでご了承ください。

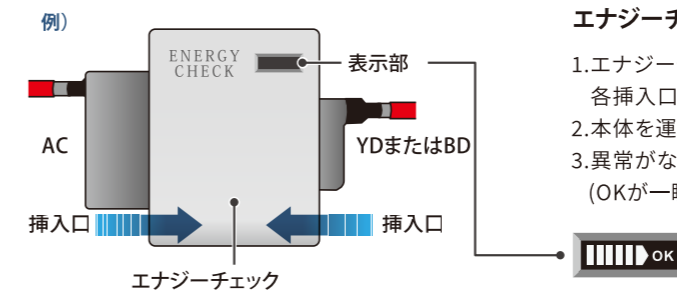
販売名	HD11
型式	HD11
外形寸法	300(W)×110(H)×280(D)(mm)
定格電圧	100-240V～(日本国内での使用の場合、AC100Vに限定)
定格周波数	50-60Hz
定格消費電力	2W
重量	約1.8kg(本体)
運転時間	任意設定(1分～60分)
出力電圧	DC-5000V±1000V
安全装置	・プラグが抜けた時、運転の自動停止 ・プラグが正常に挿入されていない時、運転しない ・過電流保護 出力部に保護抵抗を直列接続して電流の流れを制限
作動モード	連続運転

付属品	YD仕様	BD仕様
導子極板AC(2.5m/4m)	1本	1本
対極板YD(2.5m/4m)	1本	—
対極板BD(2.5m/4m)	—	1本
カバー小	2枚	2枚
カバー特小	4枚	2枚
ベルト特小W(長さ30cm)	2本	1本
ベルト中(長さ80cm)	1本	1本
ベルト大(長さ120cm)	1本	1本
ACアダプター(1.25m)	1本	1本
電源コード(2m)	1本	1本
接地アダプター	1個	1個
取扱説明書	1部	1部
エネルギーチェック	1個	1個
スパイラルチューブ(2.5m/4m)	5本/10本	5本/10本

付属品(保証対象外)



エネルギーチェック



エネルギーチェックは、機器の使用前の点検に用いる検査機器です。

1. エネルギーチェックを水平な場所に置いて導子極板AC、対極板YDまたはBDを各挿入口に奥まで挿入します。
2. 本体を運転状態にします。
3. 異常がなければエネルギーチェック表示部に「OK」表示が点灯します。(OKが一瞬でも表示されれば正常です。)

※点検中は、導子極板AC、対極板YDまたはBDに触れないようにしてください。必ずカバーを外して点検してください。

エネルギーチェックは、本体からの出力有無や導子極板/対極板ケーブルの導通有無を確認するものです。導子極板や対極板の消耗・劣化状態を確認するものではありません。